

成人（女性・勤労者）

上田智子（児童学部児童学科）

1. 実態と課題

「女性や勤労者」グループでのワークショップでは、まず、女性が直面するさまざまな問題や求められる支援、そこから示唆される学習ニーズについて多くの意見が出された。そしてその中で、とりわけ女性に関しては、ライフステージの変化に応じて課題や求められる支援が次々と変わっていくということが確認された。例えば、10～20代には女性特有のキャリアデザイン、ライフデザインを考える必要性、20～30代には結婚・子育てと仕事の両立や、子育てやしつけに関する悩みや不安、40代になると思春期や受験を迎える難しい年齢層の子育てに関する悩み、50代になると自らの更年期や親の介護問題といったように、女性の生活やそこで直面する課題は、結婚・出産・子育てといったライフイベントや家族の状況に大きく左右される現状があるからだ。

またワークショップでは、「女性や勤労者」の中に、社会教育の場に参加しにくい層がいることが確認された。勤労男性については、本人の意識は少しずつ変わっているものの、社会的な状況が厳しい中で、いまだ不十分な参画にとどまっており、退職後の「地域デビュー」で困難を抱えるケースなども報告された。また育児中の女性についても、やはり以前と比べると親子の居場所は増えてはいるが、社会と十分につながれないケースもあり、そのことが育児をより困難にしていると指摘された。

2. コンセプトと目標設定（全体フレーム）

上記のような課題認識から、私たちのグループでは、「さまざまなライフステージの男女が、それぞれ輝き、助け合える」ということを基本コンセプトとした。

そして、このコンセプトを実現するための目標は、「多世代・異世代の交流・助け合い」を促し、「ライフステージに応じた支援」を行って「次のライフステージへの準備」が進められるようにすることである。

上述のような特定のライフステージにおいて女性が直面する課題は、旧来の地域社会などでは、年長者からの経験談やアドバイスにより一定程度解決していたものと思われる。しかし、現代においては、そうした世代間の交流や助け合いの機会が十分でないため、同世代の閉じた関係の中でいたずらに不安が募ったり、情報にふりまわされたり、人間関係のトラブルを抱えたりといった事態も生じているのではないかと。したがって、もっと多世代・異世代が交流

できるような仕組みを作れば、世代間で知恵の伝承や助け合いが促されるのではないかと考えたためである。

3. 具体的な事業

具体的な事業として提案されたのは、まず、多世代・異世代の交流を促進する方策に関するものである。多世代・異世代の交流には、明確なビジョンと拠点、そして人材が必要である。そこで、「多世代交流推進協議会」「多世代交流のための人材養成」「多世代交流館の開設」などが提案された。また、具体的な「しかけ」として、「中高生を講師に高齢者に対するスマホ・ケータイに関する講座を行う」「高齢者が講師の昔遊び伝承講座」「幼児からシニアまで参加できるスポーツイベント」「お父さんと子どものためのクッキング講座」などのアイデアが出された。

次に、社会教育や生涯学習の場に参加しづらい層への学びの保障として、図書館を、より利用者のニーズに即した形で活用できるような方策が提案された。例えば、「ナイト・ライブラリー」「図書館資料の駅・コンビニでの受け渡し」「図書館資料の郵送サービス」などである。また、「公民館講座の動画配信」などのアイデアも示された。

よりターゲットを絞った事業としては、子育て中の母親に対する「育児中のお母さんに対する仲間作り講座」「親子で一緒に学べる場・機会の提供」、勤労男性に対する「おやじの会応援事業」などが提案された。

そして、「ライフステージに応じて変わる課題を知り、それらに対応できるよう学習機会を保障」することも、次のライフステージへの準備を進めるという観点から提案された。

4. 期待と成果

上述のような事業案を通して期待される成果は、多世代・異世代の交流・助け合いが活性化され、ライフステージに応じた支援が受けられること、そして、次のライフステージへの移行がスムーズに行われることである。

こうした成果は、「女性と勤労男性」のテーマに直接的には無関係のようにも見えるかもしれない。事業案にも、一見したところ「女性と勤労男性」に関する事業と捉えにくいものがあり、「女性や勤労者」に関する事業として提案・実施していくには少なからず困難もあるように思われる。しかし、多世代・異世代の交流を図ろうとすることが、結果的に、社会教育や生涯学習の場に参加しづらかった層を巻き込んでいくことにつながり、「さまざまなライフステージの男女」の参画を考えることが、「女性や勤労者」の課題を解決することになるのではないかと、というのが、私たち「女性と勤労者」グループの結論であった。



松戸市各種団体連携研究会・ワークショップ
「成人（女性・勤労者）グループ」ふせん紙仕分け中の様子
(2014年8月30日実施)



松戸市各種団体連携研究会・ワークショップ
「成人（女性・勤労者）グループ」話し合い中の様子
(2014年8月30日実施)

資料5 成人(女性・勤労者)に関する事業(案)のクドバスチャート

<クドバスの成果>

事業例としては、次の10点が挙げられた。

1. 異多世代交流1「人材・拠点づくり」 2. 異多世代交流2「多世代交流型 団体活動支援事業」 3. 多世代交流型イベント・講座 4. 様々な人への学びのアクセス保障1「図書館の利用保障」 5. 様々な人への学びのアクセス保障2「講座・情報へのアクセス」 6. 子育て支援1「育児中の母親支援」 7. 子育て支援2「子育て支援グループ・団体活動支援事業」 8. 地域の人材開発 9. 学校連携 10. ライフサイクルについての学習機会

仕事	能 力																			
	1-1	A	1-2	A	1-3	A	1-4	A	1-5	A	1-6	A	1-7	A	1-8	A	1-9	A	1-10	A
1 異多世代交流1 人材・拠点づくり	多世代交流推進協議会の設立		異世代間交流のための人材を養成する		異世代交流の企画・運営する人材を育てる場を作る		図書館の分館に公民館窓口をつくる(兼任)公民館の地区担当者		異世代間の交流のできる場所作り		多世代交流館の開設		学校開放での異世代交流		空店舗空事務所を活用。定期借上げにして、地域の活動拠点にする		何かの目的を作り、今日集まったような雑多な人たちが自由に話せる		育児中の人から年配者まで交流できる場を作り巡回する(移動児童館のように)	
2 異多世代交流2 多世代交流型 団体活動支援事業	2-1	A	2-2	A	2-3	A	2-4	A	2-5	A	2-6		2-7		2-8		2-9		2-10	
3 多世代交流型イベント・講座	3-1	A	3-2	A	3-3	A	3-4	A	3-5	A	3-6	A	3-7	A	3-8	A	3-9	A	3-10	A
4 様々な人への学びのアクセス保障1 図書館の利用保障	4-1	A	4-2	A	4-3	A	4-4	A	4-5	A	4-6	A	4-7	A	4-8	A	4-9		4-10	
5 様々な人への学びのアクセス保障2 講座・情報へのアクセス	5-1	A	5-2	A	5-3		5-4		5-5		5-6		5-7		5-8		5-9		5-10	
6 子育て支援1 育児中の母親支援	6-1	A	6-2	A	6-3	A	6-4		6-5		6-6		6-7		6-8		6-9		6-10	
7 子育て支援2 子育て支援グループ・団体活動支援事業	7-1	A	7-2	A	7-3	A	7-4		7-5		7-6		7-7		7-8		7-9		7-10	
8 地域の人材開発	8-1	A	8-2	A	8-3	A	8-4	A	8-5		8-6		8-7		8-8		8-9		8-10	
9 学校連携	9-1	A	9-2	A	9-3	A	9-4		9-5		9-6		9-7		9-8		9-9		9-10	
10 ライフサイクルについての学習機会	10-1	A	10-2	A	10-3		10-4		10-5		10-6		10-7		10-8		10-9		10-10	

注:2014年8月、女性・勤労者グループ 上田智子(聖徳大学)、五十嵐かほり(松戸市家庭婦人テニス協会)、田中温子(私立浦和ルーテル学院高等学校教諭)、錦恵子(松戸市家庭婦人テニス協会)、野村由香(NPO法人子育て支援ぼこら)、藪田京子(まつど女性会議)、山崎敏子(松戸市社会教育委員会)計7名で作成。